

# 12月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和2年12月末現在〕

令和3年1月12日  
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」「売上高」「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」「売上高」はやや悪化した。」「収益状況」は変化がなかった。

業種別に見ると、製造業では、「景況」「売上高」「収益状況」は全てで改善した。非製造業では、「景況」「売上高」「収益状況」は全てで悪化した。

製造業の一部業種で需要の増加等により回復傾向が見られたが、年末のGoToトラベル一時停止や県内への帰省者減少など新型コロナウイルスの感染拡大の影響により需要が減少し数値が悪化した。

## 景況DI

製造業は、前月比11.5ポイント改善の-38.5ポイント、非製造業は、前月比20.9ポイント悪化の-54.2ポイント、全体では、前月比4.0ポイント悪化の-46.0ポイントになった。

## 売上高DI

製造業は、前月比7.7ポイント改善の-34.6ポイント、非製造業は、前月比12.5ポイント悪化の-33.3ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の-34.0ポイントとなった。

## 収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント改善の-42.3ポイント、非製造業は、前月比8.3ポイント悪化の-50.0ポイント、全体では、前月比で変化なしの-46.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に業界景況ウォッチング連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
製 造 業	パン	前年同月とほぼ同じくらいの売上となり学校給食は11月と同様に平常に戻った感じはある。しかし、米飯給食の実施回数が増加している地域があるため、パン給食の回数は減少傾向がみられる。	
	味噌		
	酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県11月の清酒課税移出数量は、10月の前年同月比102%から反転し、同95.3%と下落。本格焼酎についても前年同月比88.2%であった。これは11月の新型コロナウイルス第3波によるものである。また、清酒の輸出については新型コロナウイルスのパンデミックによる落ち込みから戻ってきており、10月の輸出数量（全国ベース）は前年同月比114.2%となっている。米国は依然厳しいが、中国・香港・台湾・シンガポールが伸びてきている。欧米については、新型コロナウイルス感染拡大により予測が立たない状況である。 ○県内当業界について 新型コロナウイルスの感染が落ち着いてくると酒の出荷も増加してくるが、11月以降の第3波により最近の状況は厳しくなっている。例月の3倍の売上が見込める12月も大規模の忘年会が中止となり、さらに年明けの新年会も見込めず出荷がさらに落ちると思われる。	
	納豆	土産品はGoToトラベル停止により大変厳しくなっており、年末年始は前年同期比40%程度となった。一般消費者用は売上が少し悪化してきている。	
	菓子	1都3県緊急事態宣言発令。県内も外出自粛要請で顧客の行動が制限され、1月はさらに客足が減ることが見込まれる。	
	漬物	観光・物産関係等で売上悪化が目立つ。新型コロナウイルス感染者の増加が目立ち始めた12月からの全ての消費が落ち込んでいる。令和3年は前年より厳しいスタートになりそうである。	
	繊維工業	織物	新型コロナウイルス感染者が増加傾向の今、取引条件が悪化（発注数減少）すると織元や織子さんの仕事がなくなってしまい、辞めていく人たちが増えていくことが懸念される。
		袋物	注文数が頭打ちになってきた。新型コロナウイルスの感染拡大と売上・受注減少が連動しているように思う。このままだと廃業に追い込まれる会社もある可能性がある。
		衣服	
	木材・木製品	製材	・ 構造材等は比較的順調に推移した。 ・ 原木は極端な出材減少で価格高騰が続いている。 ・ プレカット工場の稼働状況は例年ほどではないが、比較的好調に推移した。 ・ 輸入材は構造材や羽柄材の荷動きは順調に推移した。
		県北地区プレカット	売上は前年同月比で70%増加。1月も想像以上に加工予定が入っている。
		県央地区プレカット	大型物件の加工が2棟続いたため工場生産ラインは忙しい状況となった。見積について12月は件数が減少となっているため、年明け2・3月の受注に影響が出ることが予想される。
紙・紙加工品	段ボール	売上は前年並みか数%ダウンで推移し、数字的に戻ってきている。しかし、顧客の業績は大きくバラつきがあり、EC（電子商取引）系・医療系は業績が伸び、アパレル・袋・紙コップ・プラカップ等は30%以上ダウンしている。	
印刷	総合	年末特有の受注もあるが、長引くコロナ禍の中で社会全体の経済活動の低迷から各種印刷需要も低迷し、総体的な受注減少が続いている。収束の見通しが立たず、拡大しているコロナ禍により業界全体の不安感は大い。	
化学・ゴム	自動車部品		

報告者名  
報告年月

茨城県中小企業団体中央会  
令和2年12月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
製 造 業	窯業・土石製品	県央地区石材	
		県西地区石材	
		コンクリート製品	
		焼物	新型コロナウイルスは感染が落ち着いたように思われたが、年末ぐらいから感染拡大に歯止めがかからなくなってきた。今までは他人事だったが、身近になってきたように思う。気を付けて行動していきたい。
		生コンクリート	
	鉄鋼・金属	鍍金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注量・売上とも前年同月比で10～15%程度減少した。しかし、前年同月比では減少しているものの9月以降から売上は緩やかに回復している。前月同様に自動車部品関係が増えてきている。</li> <li>・業界全般の景況は緩やかに回復しているものの、予断を許さない状況。</li> <li>・金属材料は価格の上下変動が激しく貴金属は高値のままである。また、工業薬品の価格は大きく変わらない。</li> </ul>
	一般機器	精密機器	
		工業団地	対象7組合員（製造会社）の売上は、前年同月と比較してすべて増加となった。全体増減率は前年同月比128%であった。得意先の海外向け小型トラクター等の需要増加により受注が大幅に増加。団地内組合員全社で売上は前年を上回った。受注状況も堅調に推移することが見込まれ、引き続き期待が持てる。
	電気機器	重電	
	輸送機器	自動車部品	今年度初めから低調に推移していたが底を打った感があり、前年同月比で上昇に転じている組合員もいる。
		輸送車両	
	その他の製造業		
非 製 造 業	卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比1.61%減少。11月同様、新型コロナウイルス感染拡大により家庭内消費が増加しているため、量販店（スーパー等）は前年を上回ったが、仲卸業者・一般買受人は前年を下回った。通常であれば仲卸業者は年末最終3日間は買い出しが盛んになるが、前年と比べると静かな年末だった。また、新年会及び各種行事の中止が発表されているため、どうなっていくのか予想ができない状況のため不安が広がっている。
		県南地区卸	日用品雑貨の取扱業者は依然として厳しい状況ではあるが、その他の業者（食材関連、建築資材、福祉介護用品）については徐々に回復しつつある。
		食品卸	野菜果実合計で前年同月比90%の取扱高となった。11月に引き続き、上旬から中旬にかけて出荷順調、単価安となった。下旬に入ると、クリスマス需要や年末に向けて若干価格が上がったが前年には届かず、全体を通して平年以下で推移した。果実に関しても例年通りクリスマス前にイチゴの需要が増え一時的に価格が上昇したがその後は落ち着き、年末に需要が増すみかんも出荷が多かった。
		セメント卸	袋セメントの出荷袋数は、前年同月比約2%減少。12月は特需もなく、ほぼ前年並みの出荷で推移。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	小売業	
	県北地区共同店舗	全体の売上は前年同月比102.8%、客数は同105.9%と市のプレミアム商品券が要因で概ね良い結果となった。また、前年同月の売上を確保した店舗は66.6%で前年同月の売上を確保できなかった店舗は、市のプレミアム付商品券の取扱を行っていない店舗であった。
	県央地区共同店舗	売上（客数）について全体では前年同月比97%（97%）、食品は同104%（99%）、飲食は同97%（87%）、ファッションは同79%（86%）となった。引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により時短営業店舗があるほか、県内感染者増加により飲食・ファッション店舗の売上が前年に比べて悪く、顧客の長時間の滞在・買い回りが極端に減少した。年末も前年と比べると帰省者が少ないからか売上・客数ともに不調だった。
	県南地区共同店舗	売上は気温の低下にも助けられ、婦人衣料が好調。食料品も前年売上を確保できた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で販促活動が一切できなかったことから、催し物・イベント等の集客ができず全体の客数は前年同月比86.4%と苦戦した。売上は前年同月比で、全体98.6%、衣料品86.3%、文化品72.4%、食料品100.6%、飲食98.9%、サービス101.1%であった。
	クレジット	
	家電	新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい。3密を避けるため、会議・催事の動きも控えめとなり、展示会も開催できず、年末は厳しさを増した。
	石油	天候にも恵まれ、洗車等の油外販売の売上は前年よりも増加したが、外出自粛が求められるなかで燃料の販売は前年同月比約9割と減少した。菅首相の2050年カーボンニュートラル宣言を受けて、さらにガソリン需要の減少が加速することが予測される。また、ESGやSDGs等の対応についても今後は避けて通れない課題である。将来的展望を見据え、再投資可能な経営を行うためには収益性をさらに高める必要があると考える。
	農機具	
	中古自動車	販売価格は前年同月比10.7%減少し、売上高も同13.2%と大幅に落ち込んだが、2割強マイナスとなった11月からはやや回復した。また、依然として流通市場の車不足が続いているため高年式車や良質車の価格高騰がみられ、小売市場にも影響を及ぼしている。
飲食業	組合員は新型コロナウイルス感染拡大のなかで食のライフラインを担っているため、比較的好調に推移している。12月は新型コロナウイルスが県内でも感染拡大傾向にあり、特につくば市・土浦市等は感染が拡大しており巣ごもり需要商品が伸び始めている。GoToトラベル停止もありクリスマス・年末年始は家庭で消費される商品が伸びたが、帰省の自粛等で年配者の買上金額が減少傾向だった。	
商店街	水戸	
	筑西	新型コロナウイルス感染拡大により、来店客数・売上減少。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両在庫状況指数である継続検査台数（持込検査）は、前年同月比で普通車が107.1%、軽自動車が98.5%となり、普通車は増加、軽自動車は減少となった。
	ホテル・旅館	GoToトラベル事業によりやや持ち直し傾向が見られたが、感染拡大により一部自粛規制や事業一時停止による予約のキャンセル、さらには新規予約数の停滞が顕著である。また、クラスター発生の市町村の組合員施設は営業が立ちいかないほど宿泊者が減少している。
建設業	総合	大きな変化はなかった。各社受注した工事を順調に施工している。完成物件が出始め各種検査等が始まり完成書類の作成に技術者は多くの時間を費やしている。
	電気工事	
	管工事	
	交通安全施設	
	型枠工事	業況は、前年とほぼ変わらなかった。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況が続くと不況が訪れるんじゃないかと大変心配である。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	運輸業	貨物軽自動車運送 組合員数は117名、車輛台数は150台で11月と比較して1名増加、1台増加となった。また、全国連合会の組合員数は7,593名、車輛台数は9,015台で前月と比較して14名減少、14台減少であった。
		県北地区一般貨物 年末となるが、主要顧客の出荷物量は伸びず、売上高も減少している。さらに燃料価格は上昇しており、収益が厳しい状態が続いている。
	その他の非製造業	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	パン	学校給食におけるパン給食実施回数増加要望。
	酒	酒造業者は新型コロナウイルスにより重大な経済的被害を受けており、今後の経営存続に懸念が生じている。行政への再度の持続化給付金等の財務支援のご検討をお願いしたい。
	漬物	更なる支援強化対策をお願いしたい。
小売業	県央地区共同店舗	コロナ禍による消毒液などの消耗品経費もかさみ、大きな負担となっていた所、笠間市商工会にて「感染予防対策支援事業補助金」の支援を受けることができたようになった。今後もいつまで続くかわからない状況の中で、感染リスクが高い施設なので、行政に対してもコロナに関する消耗品費用など継続的な支援（補助金）を希望する。
	石油	・新型コロナウイルス感染症による経営環境悪化に対する補償 ・揮発油税に課税している二重課税の廃止
	農機具	集合しての会合が新型コロナウイルスのため実施しづらくなっております。そのため、リモートでの会議が可能となるよう必要機器（タブレット等）の購入に対する助成措置を講じて欲しい。
建設業	総合	工事完成書類は20年以上前から比べると数倍の量となっている。その中には真に必要な書類と不要な書類が存在する。原因は完成工事の評価が点数で決められ次回の入札でその評価が大きな要因を占めるためである。そのために各社点数をよくするために必要と思われない書類を作りそれが前例となり標準となることにある。書類の簡素化のために役所は現場職員の意見を聞き簡素化の努力をさらに進めていただくようお願いしたい。
	型枠工事	年末年始は、特に躯体工事の不足が目立ちます。是非とも、工事発注の平準化をお願いします。

月次景況調査 12月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	12月	11月	前月比	12月	11月	前月比	12月	11月	前月比
景 況	▲ 46.0	▲ 42.0	▲ 4.0	▲ 38.5	▲ 50.0	11.5	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 20.9
売 上 高	▲ 34.0	▲ 32.0	▲ 2.0	▲ 34.6	▲ 42.3	7.7	▲ 33.3	▲ 20.8	▲ 12.5
収 益 状 況	▲ 46.0	▲ 46.0	0.0	▲ 42.3	▲ 50.0	7.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 8.3
販 売 価 格	▲ 14.0	▲ 12.0	▲ 2.0	▲ 7.7	▲ 3.8	▲ 3.9	▲ 20.8	▲ 20.8	0.0
取 引 条 件	▲ 14.0	▲ 14.0	0.0	▲ 7.7	▲ 7.7	0.0	▲ 20.8	▲ 20.8	0.0

# 中小企業月次景況調査(令和2年12月)DI値(前年同月比)

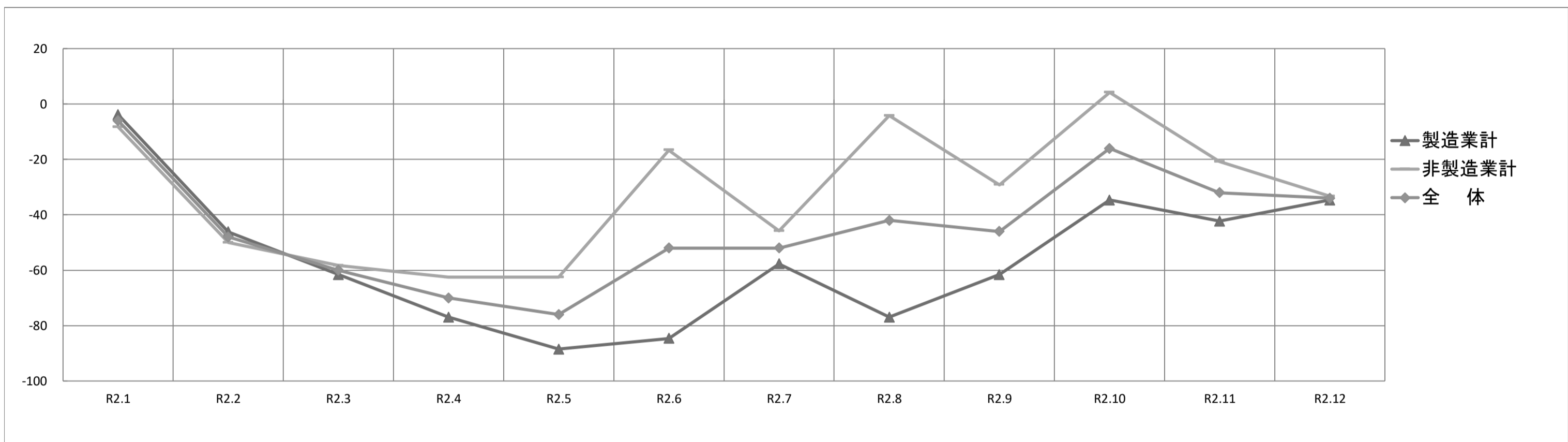
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 83.3	0	1	5	6	0.0	1	4	1	6	△ 16.7	0	5	1	6	0.0	0	6	0	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 33.3	0	4	2	6	△ 66.7	0	2	4	6
	繊維工業	△ 100.0	0	0	3	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 100.0	0	0	3	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	化学・ゴム	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	窯業・土石製品	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 20.0	0	4	1	5
	鉄鋼・金属	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	一般機器	50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	50.0	1	1	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2
	電気機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	△ 100.0	0	0	2	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 100.0	0	0	2	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2
製造業計	△ 34.6	4	9	13	26	△ 7.7	1	22	3	26	△ 7.7	1	22	3	26	△ 7.7	0	24	2	26	△ 42.3	1	13	12	26	△ 42.3	0	15	11	26	△ 30.8	1	16	9	26	△ 26.9	0	19	7	26	△ 38.5	0	16	10	26	
非製造業	卸売業	△ 50.0	0	2	2	4	0.0	0	4	0	4	△ 25.0	0	3	1	4	0.0	0	4	0	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 25.0	0	3	1	4					0.0	0	4	0	4	△ 50.0	0	2	2	4	
	小売業 (商店街含む)	△ 36.4	3	1	7	11	9.1	2	8	1	11	△ 27.3	0	8	3	11	△ 36.4	0	7	4	11	△ 63.6	1	2	8	11	△ 63.6	0	4	7	11					△ 18.2	0	9	2	11	△ 63.6	1	2	8	11	
	サービス業	0.0	0	2	0	2					0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	建設業	0.0	1	3	1	5					△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5					0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5		
	運輸業	△ 100.0	0	0	2	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 50.0	0	1	1	2					0.0	0	2	0	2	△ 100.0	0	0	2	2		
	非製造業計	△ 33.3	4	8	12	24	6.7	2	12	1	15	△ 20.8	0	19	5	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 50.0	1	10	13	24	△ 41.7	0	14	10	24					△ 8.3	0	22	2	24	△ 54.2	1	9	14	24	
全体	△ 34.0	8	17	25	50	△ 2.4	3	34	4	41	△ 14.0	1	41	8	50	△ 14.0	0	43	7	50	△ 46.0	2	23	25	50	△ 42.0	0	29	21	50	△ 30.8	1	16	9	26	△ 18.0	0	41	9	50	△ 46.0	1	25	24	50	

## D I 値推移表 (R2.1月 ~ R2.12月期)

### 《売上高の推移》

前年同月比	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	5.0	▲ 45.0	▲ 60.0	▲ 80.0	▲ 90.0	▲ 90.0	▲ 55.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 3.8	▲ 46.2	▲ 61.5	▲ 76.9	▲ 88.5	▲ 84.6	▲ 57.7	▲ 76.9	▲ 61.5	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 34.6
卸売業	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	25.0	50.0	0.0	50.0	25.0	100.0	25.0	▲ 50.0
小売業(商店街含む)	0.0	▲ 72.7	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 27.3	▲ 63.6	▲ 9.1	▲ 36.4	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 36.4
サービス業	0.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0
建設業	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 100.0	0.0	▲ 20.0	20.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
非製造業計	▲ 8.3	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 62.5	▲ 62.5	▲ 16.7	▲ 45.8	▲ 4.2	▲ 29.2	4.2	▲ 20.8	▲ 33.3
全体	▲ 6.0	▲ 48.0	▲ 60.0	▲ 70.0	▲ 76.0	▲ 52.0	▲ 52.0	▲ 42.0	▲ 46.0	▲ 16.0	▲ 32.0	▲ 34.0

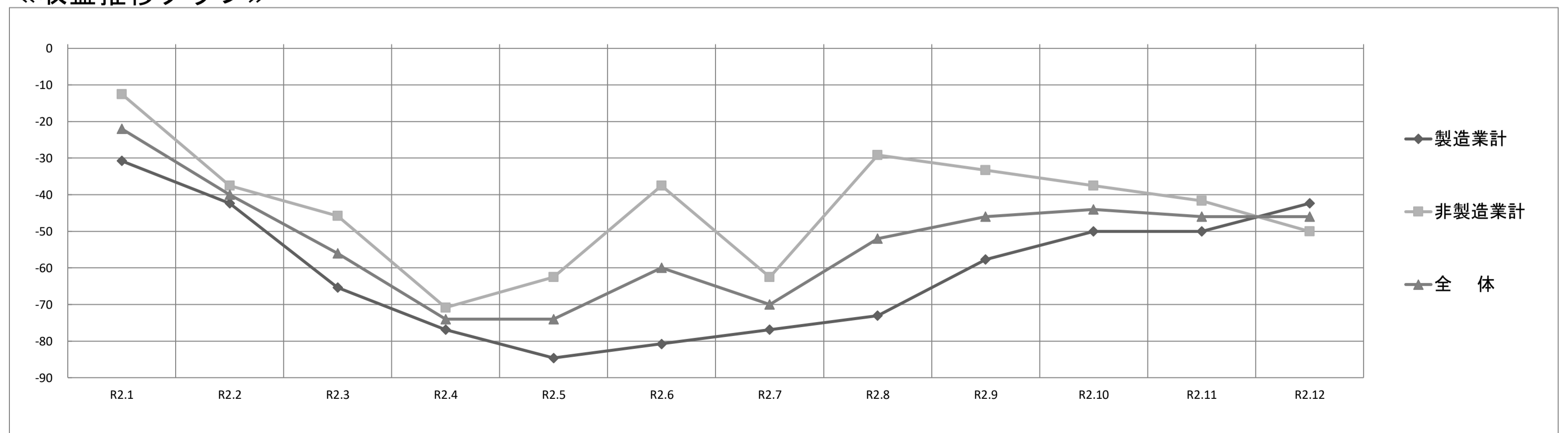
### 《売上高推移グラフ》



### 《収益の推移》

前年同月比	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12
食料品製造業	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 65.0	▲ 80.0	▲ 90.0	▲ 80.0	▲ 85.0	▲ 80.0	▲ 65.0	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 65.4	▲ 76.9	▲ 84.6	▲ 80.8	▲ 76.9	▲ 73.1	▲ 57.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 42.3
卸売業	0.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 75.0	0.0	25.0	▲ 25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	▲ 25.0
小売業(商店街含む)	▲ 36.4	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 81.8	▲ 63.6	▲ 90.9	▲ 45.5	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 63.6
サービス業	50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
非製造業計	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 70.8	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 62.5	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 41.7	▲ 50.0
全体	▲ 22.0	▲ 40.0	▲ 56.0	▲ 74.0	▲ 74.0	▲ 60.0	▲ 70.0	▲ 52.0	▲ 46.0	▲ 44.0	▲ 46.0	▲ 46.0

### 《収益推移グラフ》



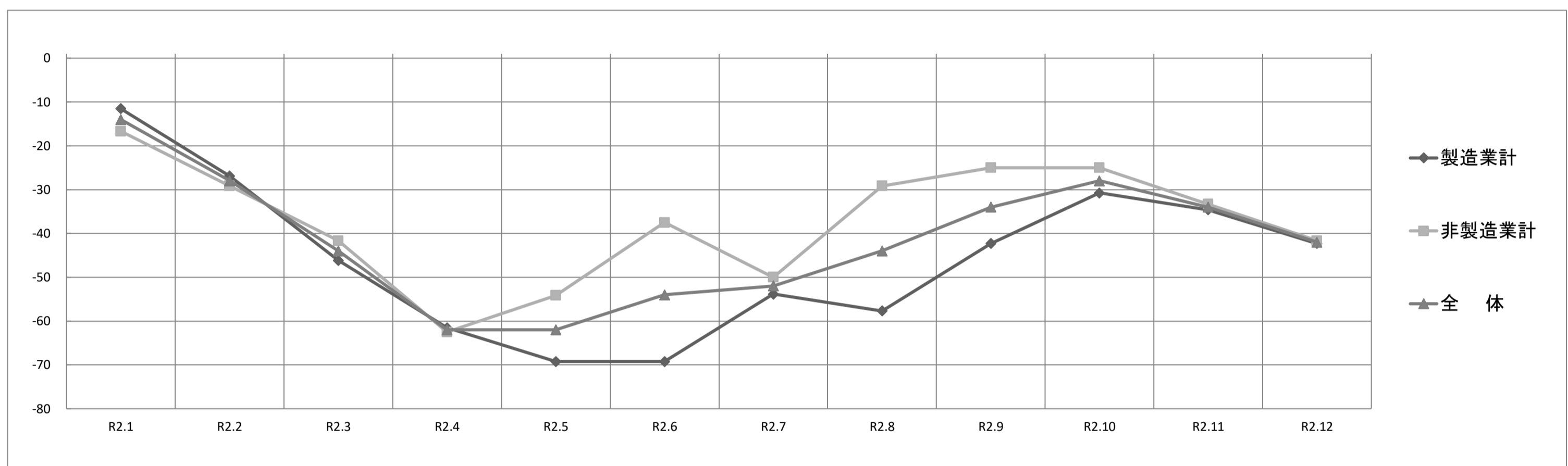


## D I 値推移表 (R2. 1月 ~ R2. 12月期)

### 《資金繰りの推移》

前年同月比	R2. 1	R2. 2	R2. 3	R2. 4	R2. 5	R2. 6	R2. 7	R2. 8	R2. 9	R2. 10	R2. 11	R2. 12
食料品製造業	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 40.0	▲ 55.0	▲ 65.0	▲ 65.0	▲ 60.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 11.5	▲ 26.9	▲ 46.2	▲ 61.5	▲ 69.2	▲ 69.2	▲ 53.8	▲ 57.7	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 42.3
卸売業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 75.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	▲ 25.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 63.6	▲ 90.9	▲ 81.8	▲ 72.7	▲ 81.8	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6	▲ 63.6
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 16.7	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 62.5	▲ 54.2	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 41.7
全体	▲ 14.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 62.0	▲ 62.0	▲ 54.0	▲ 52.0	▲ 44.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 34.0	▲ 42.0

### 《資金繰り推移グラフ》



### 《景況の推移》

前年同月比	R2. 1	R2. 2	R2. 3	R2. 4	R2. 5	R2. 6	R2. 7	R2. 8	R2. 9	R2. 10	R2. 11	R2. 12
食料品製造業	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 50.0	▲ 55.0	▲ 85.0	▲ 85.0	▲ 80.0	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 30.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 50.0	▲ 57.7	▲ 80.8	▲ 80.8	▲ 80.8	▲ 69.2	▲ 65.4	▲ 57.7	▲ 38.5	▲ 50.0	▲ 38.5
卸売業	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 25.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	▲ 50.0
小売業(商店街含む)	▲ 20.0	▲ 72.7	▲ 90.9	▲ 81.8	▲ 81.8	▲ 72.7	▲ 72.7	▲ 45.5	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6	▲ 63.6
サービス業	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 33.3	0.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 54.2
全体	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 66.0	▲ 78.0	▲ 72.0	▲ 62.0	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 48.0	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 46.0

### 《景況推移グラフ》

